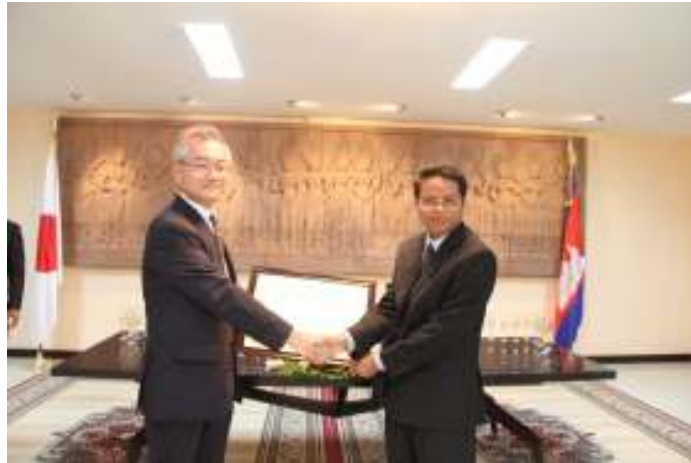




報道者各位

2013年10月31日
国際協力機構（JICA）
カンボジア事務所

カンボジア地雷対策センターへ、JICA 国際協力感謝賞 ～国内の地雷・不発弾除去、南南協力を高く評価～



写真：
感謝状を受け取る CMAC
ヘン・ラタナ長官（右）と
JICA カンボジア事務所・井
崎宏所長（左）

10月30日（水）、カンボジア王国外務国際協力省（MoFA-IC）にて カンボジア地雷対策センター（Cambodian Mine Action Centre、以下 CMAC）*に、「JICA 国際協力感謝賞」が授与されました。

「JICA 国際協力感謝賞」は、JICA が行う国際協力の業務に貢献、または長年にわたって協力し、特に功績があったと認められる個人と団体に贈られます。今年、CMAC や北九州市を含む7団体と、個人10名が同賞を受賞しました。

1998年より日本政府及び JICA は、一般無償資金協力による機材提供（計6回・総額約52億7000万円）、専門家の派遣（のべ5名）、技術協力プロジェクト「人間の安全保障実現化のための CMAC 機能強化プロジェクト」の実施を通じて CMAC の活動を支援してきました。また、CMAC は蓄積した知見・技術を第三国に共有する「南南協力」も実施しており、今回の受賞においては、CMAC の地雷・不発弾除去活動に加え、このような南南協力も、紛争後の国の復興・開発、そして平和構築の観点からも意義深いと評価されました。

CMAC の調査（2001年～2002年）によると、国内には400万～600万個の地雷と約270万個の不発弾が埋まっているとされていましたが、CMAC を始めとする地雷・不発弾除去実施機関の努力により、2012年末までには約328万の地雷・不発弾が除去され、内230万は CMAC の除去活動によるものです。また、地雷・不発弾による犠牲者は1996年の4,320人/年をピークに、2012年には186人/年まで減少しました。しかし、国内の地雷・不発弾汚染地域は未だ1,914平方キロメートルに及び、今後も継続的な地雷除去作業の技術力・効率性の向上が必要とされています。

*カンボジア地雷対策センター（CMAC）とは：「人道的・開発事業のための地雷対策」を使命とし、地雷・不発弾の処理と危険回避教育、地雷情報の収集・調査、地雷除去に関する訓練、などを活動の柱とするカンボジア唯一の政府系地雷・不発弾除去実施機関です。日本は、CMAC のトップドナー国として1998年より支援を継続しています。